

# 平成28年度 箱根町教育方針

## I 教育の基本方針

- 1 園・小・中学校の一貫教育の試行を行います。
- 2 教育方針を「子どもを育てる教育」から「人を育てる教育」へ転換します。

### 3 はじめに

#### 1) 学校統合8年経過

平成20年4月に5小学校を3小学校へ、3中学校を1中学校に統合した。

統合に際して、「①確かな学力を身につけさせる」「②心身ともに健康で、意欲的に物事に挑戦できる子の育成を図っていく。」「③箱根を知り、箱根を語れる子の育成を図っていく。」「④心の教育の充実を図る。」「⑤特別支援教育の環境整備を図っていく。」「⑥教育環境（ハード面）の整備を計画的に行う。」「⑦通学支援・奨学金制度の継続維持を図っていく。」を統合後の教育基本方針として取り組んできた。

さらに、7つの教育基本方針を達成させるために、21の計画を推進してきた。平成26年度には21計画の整備を完了することが出来た。

また、3小・1中学校の教育内容の系統性の柱を「箱根教育」に置き、地域教育をはじめ、箱根ミニマム、おもてなしの心等5幼（保）・3小・1中学校の5園4校で一貫した教育を実践してきた。

さらに幼児教育の充実・小学校との連携を図るために「幼稚園ミニマム」「スタートプログラム」「幼（保）・小交流プログラム」に取り組んできた。

幼（保）・小・中学校の連携の共通意識の醸成を図るために、校長・園長会議や幼（保）・小・中学校教員の教育課程研究会の組織は連携強化を図るために大きな役割を果たしてきた。

今までの学校目標の設定や具体的な教育活動については、町の教育方針に沿ったものであるが、実質的には各学校の実態を基に教育目標が設定されている。更に中学との連携や小学校同士の連携は、小規模校のデメリットを鑑みての教育活動であり、中学校卒業までの系統性を持った子どもの育ちを考えたものではなかった。中学までの系統性を持たせることにより「子どもを育てる教育」から「人を育てる教育」へと転換することになる。「日本人として」「箱根人として」を見据えた中で、小・中学校の連携が具体化されることにより、教育課程への位置づけも明確化されてくる。

今後、将来にわたり、人口減少・少子化時代が到来し、学校規模もさらに小規模化されてくる。

学校の教育中、活動の維持を図るためには、未就学園児から中学校卒業までの連続した子どもの育ちを考えた教育活動を構築していくことが強く求められている。

## 2) 少子化時代を迎える教育の在り方【園・小・中一貫教育＝共有と個性化＝】

学校教育においては、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、持てる能力を伸ばしていくことが教育の大きな役割である。しかしながら近年、家庭及び地域社会における子どもの社会性育成機能の低下や少子化の進展等、教育の諸課題が今後さらに顕在化することが予測されるとの報告が国より出されている。

当町においても、すでに子どもたちの社会性機能の低下や児童生徒の減少が顕在化し、教育活動に支障を来たすことが起きている。さらに箱根町は、約30年後には、人口が半減する試算も出ている。平成30年には現在児童数より25名減少すると予測される学校がある。町では、これからの人口減に伴う少子化の予測を受け、平成27年度は「人口減少・少子化対策元年」と位置付け、取り組むことになった。

教育については、これらのことを受け、少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策として幼・(保)・小・中学校一貫教育を通し、「子どもを育てる教育」から「人を育てる教育」へと転換を図っていく。

「人を育てる教育」の基盤となるものは、「心の教育」である。「人が人として生きていく」ノウハウをしっかりと身につけることであり、さらには、系統性を持った教育を行うことである。「今、行っている教育活動が、どのように将来生きてくるのか。」を見通して教育活動を行うことが「人を育てる教育」の原点となる。

一例であるが、幼(保)稚園の3・4才時での教育の力点としては「生活習慣の基礎を造る指導」が重要視されるが、中学2・3年生では「出口を保障する指導」に力点が置かれる。12年間の発達段階を考慮に入れた指導が必要となる。

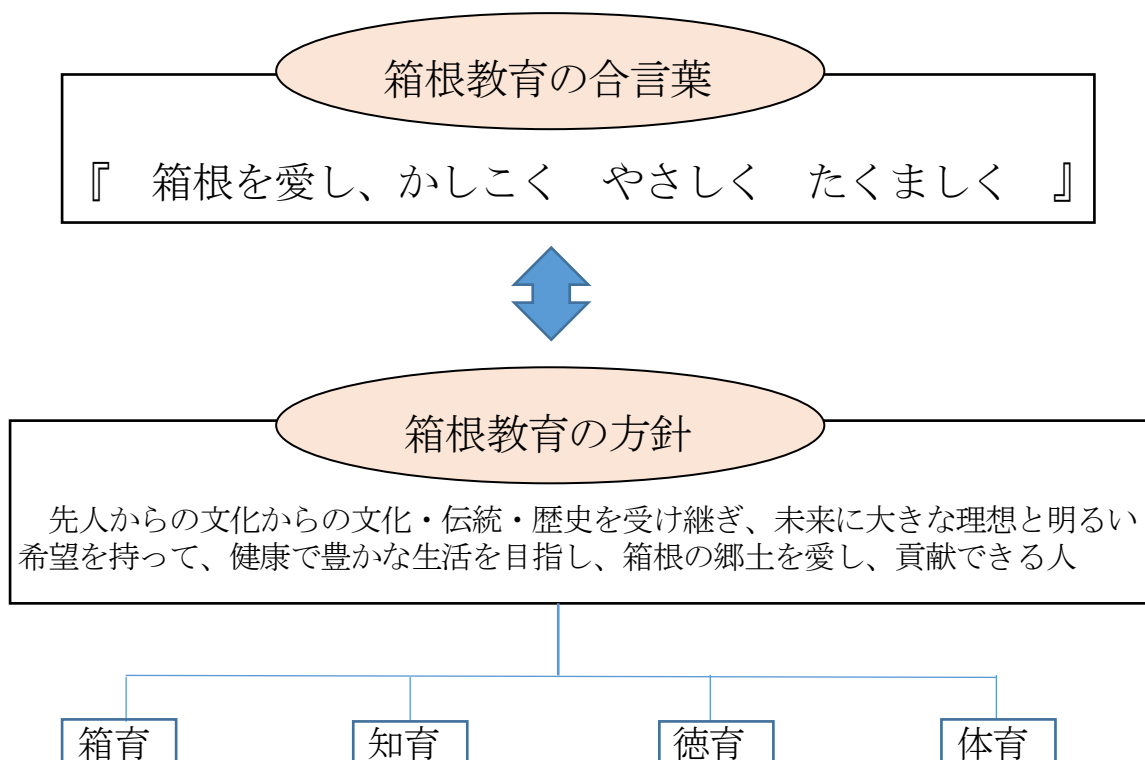
具体的に、例をあげてみると幼・保・小・中学校12年間を通し、「社会性や円滑な人間関係」を構築するための心のアイテムづくりとして「箱根ハートフルプログラムの試行」、小・中学校9年間を通した「特別支援教育のガイドラインづくり」、「発達段階を考慮した9年間の系統性をもった教科指導の在り方」「地域に根ざしたフランチャイズ方式の学校づくり」等を通し、小規模校のデメリットの克服を図り、更には、「地域に根ざした学校づくり」を図っていくことを教育の方針とした。

以上のことから、園・小・中一貫教育のコンセプトを「共有と個性化」とし、各園・小・中学校が共通で行う教育活動を「共有」とし、各園・小・中学校の実態に応じ具体策を構築していくことを「個性化」とした。

## II 箱根教育方針（箱根で培う箱根の人）

### 【学校教育】

#### 1 全園・校共有方針



#### 2 共有重点取組

	共有
箱育	地域教育（観光学習）
知育	箱根ミニマム・チャレンジ
	読書活動の推進
	学習内容の定着（無答0）
徳育	箱根ハートフルプログラム
	ほめるアイテム作り
体育	体力向上アイテム作り

#### 3 プロジェクト

- ① 園・小・中一貫教育運営推進委員会
- ② 観光学習推進プロジェクト（併 ICT 活用試行）
- ③ 学習内容定着プロジェクト
- ④ 体力向上アイテム作りプロジェクト
- ⑤ 小・中一貫教育(分離型) を見据えた給食の献立の研究

#### 4 平成28年度 「園・小・中一貫教育」における“共有と個性化”

##### 1) ① 園の共有の取り組み

項目	共有	園名	具体的な取り組み
か し こ く	★自分の思ったことや考えたことを表現できる子ども  ★絵本が好きな子ども  ★地域の人や自然、文化に進んでかかわれる子ども	湯幼	☆一人一人の発達状況を踏まえて、自己発揮できる雰囲気や環境作りをしていき、振り返りの時間や普段の遊びの中で自分の考えを発表できる場を意識的に作っていく。 ☆毎日の読み聞かせと共に、読み聞かせボランティアさくらんぼ会の協力により、絵本に興味関心を持ち、聞く力を育てていく。 ☆地域コミュニティの拠点として様々な取り組みの中でかかわりを広げていく。
		温幼	☆自分の思いや考えを諸活動に生かして計画を立てられ、事後にはその気持ちや感想を手紙や絵にして表現できる子どもを育てていく。 ☆読書環境の整備を目標に、保育者による季節感や行事に合った絵本にふれさせ、ボランティアによる読み聞かせ活動を充実させていく。 ☆積極的に地域に出て、人との出会いの機会をつくるとともに、多様な自然や文化にふれる体験活動によって、豊かな心を育てていきたい。
		宮保	☆クラス活動、朝や帰りの会、行事の後などに、話す時間を設け、自分の言葉で表現する力を育てていく。 ☆日々の担任による読み聞かせの他に、保護者ボランティアによる読み聞かせの時間設け、読み聞かせの機会を充実させていく。また、活動を通して、保護者と読み聞かせの大切さを共有していく。 ☆地域散策や地域行事等に積極的に参加していく。
		仙幼	☆日々の生活の中で友だちの姿や良かったところ等を振り返る場を設定し表現できる機会を増やしていく。(PSP) ☆読み聞かせ、絵本の貸出の充実と啓発を行い絵本への興味関心を高めていく ☆園外散歩や地域行事に参加する機会を充実させることにより自然や地域の人とのかかわりを深めていく。
		箱幼	☆帰りの会、読み聞かせや行事の後等に、自分の言葉で振り返りをする時間を確保し、表現力を育てていく。 ☆担任による日々の読み聞かせ、保護者や図書ボラによる読み聞かせ等、多様な読み聞かせの機会を充実させていく。 ☆外遊びや園外散歩の充実、地域行事に積極的に参加していく。
や さ し く	★自分から進んであいさつができる子ども  ★相手を許したり、認めたりする子ども	湯幼	☆家庭からいろいろなものを背負ってきている子もいるが、毎朝、玄関や保育室で明るくあいさつを交わすことで気持ちよく一日が始まるようにしていく。また、湯本小学校と連携して、第一月曜日にあいさつ運動を実施する。 ☆ピースフルプログラムを活用しながら、日常的に意識して生活できるようにしていく。
		温幼	☆大人も子どもも、園全体であいさつが自然に交わされる雰囲気づくりを継続していく。行事の際の来園者へ、おもてなしの心で迎える。 ☆自分を上手に表現できない子どもには、相手の気持ちになって考えられるよう、保育者がその子どもの気持ちに寄り添って話を聞いていく。
		宮保	☆明るく心を込めて保育者から率先したあいさつを励行していく。また、月1回のあいさつ運動の日を大切にしていく。 ☆日々の生活の中で、指導の必要な場面を見逃さずに声かけをし、その大切さに気づかせていく。☆ピースフルプログラムを活用していき、コミュニケーション力を養っていく。
		仙幼	☆教師が進んであいさつを行う。また、幼保小中が一齐に行うあいさつ運動を年長組の教育活動に取り入れていく。 ☆生活や遊びの中で順番を替わる、場面に応じて視覚等を使い折り合いをつけられるようにしていく。
た く ま し く	★健康によい習慣を身につけ、心も体も元気な子ども  ★進んで運動する子ども	湯幼	☆早寝早起き朝ごはんの推奨と共に、自分の身の回りのことは自分でし、気持ちよく生活できるように指導していく。 ☆0歳児から体を十分に動かして遊び、それぞれが充実感を味わい、健康的に生活できるよう指導案に盛り込んでいく。縄跳びは、毎日目的を持って行えるようにカードを作っていく。
		温幼	☆園生活ではうがい・手洗い・歯磨きの励行、家庭には早寝・早起き・朝ごはんの大切さを伝えていく。機会あるごとに、食への関心を高める。 ☆月曜日の体操に、いきいき体操やパレエを取り入れ、バラエティに富んだ活動とする。自分の運動の目標をカードにして、取り組んでいく。
		宮保	☆健康で安全な園生活や好ましい生活習慣が身につくように、それぞれの生活場面で丁寧に関わっていく。また、楽しい給食の時間をつくり出すことにより、食や体についての興味関心が持てる子に育てていく。 ☆運動の楽しさを求めて友だちと一緒に体を動かせるよう、色々な運動遊びを意図的に紹介していく。また、町全体で進めているなわとびを継続していく。
		仙幼	☆毎朝の体操タイムを充実していく。 ☆掲示を工夫し、自分から進んで靴やスリッパを揃えることができるようにしていく。また、励行している子どもを認め誉めていく。 ☆縄遊びの楽しさを知らせ、諦めずにチャレンジする気持ちや体を動かす機会を増やしていく。
		箱幼	☆規則正しい園生活の習慣化に努めるとともに、整理整頓などの身辺自立を促していく。また、食についての興味関心を高めるため、お弁当の時間を大切にしていく。 ☆トラックを利用してのかけっこ、町全体で進めるなわとびを継続していく。また、自発的に取り組めるよう、いろいろな運動遊びを紹介していく。

## 1) —② 園の個性化の取り組み

園 名	特色ある保育・教育等“個性化”
湯本幼児学園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の方の教育力を活かしての文化コミュニティがより盛んとなるようにしていく。また、管外委託の子が1/3を占めるので、湯本の良さを知ってもらうことで愛着を持てるようにする。</li> <li>●子育てサロンと連携し、就園に向けてのプログラムを盛り込んだ年間計画を立案し、自然な形で利用者と園の子どもたちとのかかわりを作ると共に、アドバイザーと連携して進めていく。</li> <li>●ピースフルプログラムを少し始めふわふわ言葉・チクチク言葉に対して、子ども達の意識の高まりが見られ、様々な場面で子ども達の言動に表れてきている。子ども達の豊かな心を願い、実施していく。</li> </ul>
温泉幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼稚園を会場にして開催される、キャンプファイヤー・健民祭・キッズフェスティバル・地域餅つき大会などに積極的に参加し、地域とともにある幼稚園をめさす。</li> <li>●アサギマダラのマーキング・押し花教室・温泉体験・書道や茶道指導・留学生との国際交流会・バレエ指導など、地域教材や人材を活用した多様な体験活動を展開して、少人数保育の利点を生かした教育活動を推進する。</li> </ul>
宮城野保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度に引き続き、保護者や地域の方を対象にした「親おやひろば講座」や未園児対象の「こつつんこ会」等を実施したり、地域の行事等に積極的に参加したりして色々な世代の人との地域交流を大切にしていく。</li> <li>●毎日の読み聞かせの実施、進んで人と関わる中で培われるおもてなしの心、ピースフルスクールプログラムの推進等により、心の豊かな子に育てていく。</li> </ul>
仙石原幼児学園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼小の連携を更に広げる。</li> <li>●地域を核にコミュニティの輪を広げていく。子育て支援センターの利用拡大と内容の充実、近隣の老人福祉施設との交流活動を広げていく。</li> </ul>
箱根幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●未就園児も参加する「体操の日」を実施したり、健民祭や芦ノ湖夏祭りウィーク等に積極的に参加したりして、園と地域が双方向でつながる、地域と共に歩む幼稚園をめざしていく。</li> <li>●箱根を訪れる外国からの観光客と定期的に交流する機会を設け、おもてなしの心の醸成や、外国語（英語）に対する興味関心を高めていく。</li> </ul>

2) — ①小・中学校の共有の取り組み

項目	共有項目	学校名	個性化の方向性
箱育	★地域教育	湯小	●観光学習を基盤とし、キャリア教育の視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の再構築 ●地域の教育力を活用
		森小	●中学年 富士屋ホテルとの連携を生かした総合的な学習の時間 ●高学年 漁協との連携を図った観光学習の研究
		仙小	●5・6年生の総合的な学習の時間（観光学習の研究）、3・4年生の社会科における地域教材の開発 ●地域をテーマにした校内掲示の充実
		箱中	●地域理解・比較・調査・還元をキーワードとするプロジェクト学習の推進 ●箱根の良さをアピールする異文化交流
知育	★箱根ミニマム・チャレンジ	湯小	●週1回朝の「はげみタイム」の効果的活用 ●漢字読みの反復練習の徹底
		森小	●反復練習のあり方の研究と実践
		仙小	●レッツトライ『スキマ時間ミニマム(チャレンジ)』！ ～ 隙間時間を活用しての自主的取組 ～
		箱中	●漢字検定の継続 ●家庭学習の徹底
	★読書活動の推進	湯小	●全学年「きつつき読書月刊」設定と読み聞かせの充実 ●玄関文庫の活用と読書環境の充実
		森小	●日々の選書と読み聞かせの充実 ●読書週間の計画的な取組
		仙小	●読書タイムの確保と読書月間の充実、ブックバッグの活用
		箱中	●読書活動を取り入れた学習環境づくり ●図書委員会や図書ボランティアの活用
	★学習内容の定着	湯小	●放課後の「ゆもと楽習塾」で基礎学力の定着 ●音読の充実
		森小	●全学年音読活動の強化 ●一人一実験・一人一観察の実践
		仙小	●担任によって変わることはない学習規律の確立と徹底
		箱中	●教科指導における読解力向上・音読・暗唱の徹底 ●生徒による授業評価の活用（校内研究の充実）

項目	共有項目	学校名	個性化の方向性
徳 育	★箱根ハートフルプログラム	湯小	●ハートフルプログラムの年間指導計画への位置付と実践 ●日常生活への応用実践
		森小	●新たなメニューの研修とプログラムの再検討
		仙小	●「心の教育」への関心と意識高揚のための授業公開 ●日常生活におけるハートフルプログラムの実践
		箱中	●日常生活に生かすハートフルプログラムの活用 ●豊かな心を育む掲示物の工夫
	★ほめるアイテム作り	湯小	●児童作品や委員会の活動等の校内掲示 ●日常の小さな成果を価値づける言葉かけ
		森小	●全職員による子どものよさを価値づける言葉かけの充実 ●児童同士がよさを認め合う活動の充実
		仙小	●称賛すべき点を伝え合える児童指導連絡会の充実 ・朝や帰りの会、朝会、学級・学校だより等の活用
		箱中	●ほめるアイテムづくりの日常化 (次のステップにつながる言葉かけ)
体 育	★体力向上アイテム作り	湯小	●「万歩計」を活用した縦割り班活動の充実 ●運動場の「土俵」を活用した遊びの推進
		森小	●縄跳び活動と体育的行事の関連を図った計画的な取組
		仙小	●「全校長縄大会」「芦ノ湖チャレンジマラソン」の継続と充実 ●チャレンジカードを活用した縄跳び運動への取組
		箱中	●休み時間を利用した体育委員会主催によるスポーツ大会及び体力づくりの実施

## 2) —② 小・中学校の特色ある学校づくり

学校名	取り組み内容
湯本小学校	●美術あふれる学校 ●放課後に「ゆもと楽習塾」がある学校 ●「地域コミュニティールーム（2階）」に地域が集う学校
箱根の森小学校	●歌声の響く学校づくり ●花のいろどりのある学校づくり
仙石原小学校	●「花いっぱい・シバザクラいっぱいプロジェクト」の推進
箱根中学校	●国際観光地箱根を生かした学校づくり（英語教育の推進）

## 【生涯学習課】

### 1) 生涯学習目標

『箱根を知り、箱根を語れる人づくりと輪づくり』

### 2) 箱根教育の具現化

#### ① 地域ぐるみ健全育成活動の推進…(箱)(知)(徳)

- ・家庭教育支援として、家庭教育講座の継続実施、定着化を図ります。
- ・青少年健全育成のための地域活動を支援します。
- ・放課後子どもの居場所づくりのための放課後子ども教室支援充実を検討します。

#### ② 文化・自然遺産の保護と活用…(箱)

- ・箱根旧街道杉並木保存管理計画策定をはじめ、文化財の保護活動を推進します。
- ・文化遺産啓発のため、冊子の刊行や文化財探訪会を実施します。
- ・文化遺産保護意識の醸成を図り、文化財ボランティアの育成を図ります。

#### ③ 健康推進・体力向上に資する生涯スポーツの振興…(体)

- ・地域スポーツ活動の推進を図ります。
- ・老若男女誰でもが親しめるニュースポーツの普及に努めます。

#### ④ 生涯学習施設の機能と運営の充実…(箱)(知)(体)

生涯学習施設は、生涯学習活動支援の中でも、学習の場の提供を行う拠点となる重要な役割を持っています。拠点5施設は、それぞれ次のような「コンセプト」を持ち、25年度教育方針に規定した10年間という期間を見据え（28年度で4年度目）、各施設の運営を展開していきます。

施設名	コンセプト
箱根町社会教育センター等	人と文化の集積処
箱根町立郷土資料館	今と昔を伝える箱根の情報館
石仏群と歴史館	俳句と歴史の里への誘い処
箱根関所・関所資料館	江戸時代の体感処
箱根町立総合体育館（レイクアリーナ箱根）	健康と体づくりの発信地

\*各施設とも、現状で行っている内容及び施設環境を常に見直し、「ただあるべき施設から、独自性のある施設へ」の転換を図っていく必要があります。



## 生涯学習施設H28年度達成目標

- 箱根町社会教育センター等公民館《人と文化の集積処》… (箱) (知)

【年間利用者目標：40,000人】

- ・HAKONE大学を継続実施します。
- ・図書サービスの向上を図ります。
- ・プチ体験講座をはじめ、各種講座を開催します。

- 箱根町立郷土資料館《今と昔を伝える箱根の情報館》… (箱)

【年間利用者目標：10,000人】

- ・収蔵資料のデジタルデータ化を図ります。
- ・郷土資料館ボランティアを育成します。
- ・箱根の歴史授業講師派遣等学習支援・サマースクール支援等、学校教育との連携強化を図ります。

- 石仏群と歴史館《俳句と歴史の里への誘い処》… (箱)

【年間利用者目標：14,000人】

- ・地域協働活動を推進します。
- ・地域的特色をテーマとした講座イベントを開催します。

- 箱根関所・関所資料館《江戸時代の体感処》… (箱)

【年間利用者目標：400,000人】

- ・完全復元施設の維持修繕を継続的に実施します。
- ・ガイドブックやパンフレット、SNSを駆使し、箱根関所の歴史教育情報、および周辺施設情報の発信に努め、地域活性化の拠点施設としての活動を展開します。
- ・スマートフォン等で利用できる観光アプリを導入し、観光資源の魅力などのさらなる情報発信に努め、観覧者増員を図ります。

- 箱根町総合体育館《健康と体づくりの発信地》… (体)

【年間利用者目標：25,000人】(4/1～8/31)

- ・指定管理者制度の円滑な導入を図り、管理体制変更後における「公の施設」として体育館運営の指導・監督に努めます。